公立学校施設を拠点とした地域スポーツクラブに関する研究
Community sports club based on public school facilities

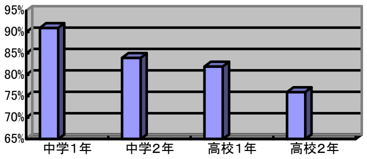
スポーツクラブマネジメントコース
5007A318-7　田口聡　　研究指導教員:　間野義之准教授

[研究目的]
地域社会と連携したスポーツクラブ、主として公立学校の施設を拠点としたスポーツクラブづくりの可能性を検証する。

[研究方法]
最初に、学校部活動と地域スポーツクラブのそれぞれの意義と現状を分析する。また、両組織の課題点の改善策として挙げることができるリーグ戦の現状を考察する。
次に、公立学校と連携したスポーツクラブの事例を考察する。地元の公立中学・高校と連携したサッカーのエリート教育を行うJFAアカデミー福島、公立学校の廃校施設を利用したNPO法人北園クラブ、高校の部活動と連携しているヴィヴァイオ船橋など実地報告を交えて考察を行い、公立学校と連携した地域スポーツクラブの実態を検証する。
スポーツ活動の普及や促進を通じて、教育力向上を図るなど地域社会に貢献できるスポーツクラブ構想とした事業計画書を作成。モデル地は大田区とした。

[学校部活動]
現在ほとんどの中学生、高校生が学校の部活動に加入している。

部活動に入部している割合（東京都）



しかし、学校現場では「スポーツ根性」「教育的見地」の名のもとに理不尽なしごきを垣間見ることがある。
スポーツが学校の枠から開放され、地域で行われることで過度な教育的価値から開放されることが必要と考える。その手立てとなるのが地域スポーツクラブである。

[地域スポーツクラブ]
スポーツ振興基本計画推進、地域スポーツ団体等による経済効果、スポーツに対する社会的価値観の向上、地域・家庭・学校との連携など、政治・経済・社会など多面的な効果を期待することができる。

[リーグ戦]
試合出場機会の確保、高校チームとクラブチームとの同世代間交流、引退なしのスポーツ生活など、競技力、意欲、プレー機会の確保等、様々な効果が期待できるシステムである。

[事業計画要旨]
■事業内容
スポーツを通じた多世代間交流ならびに、学校施設を拠点とした学校と地域社会の教育活動の連携事業
■ミッション
スポーツを通じて、10 代の子どもたちの健全な心身の発達に寄与する。地域のスポーツ文化の振興に貢献する。学校施設を拠点に、地域の教育力向上を図る。
■ビジョン
スポーツを通じて、多世代間交流を図り、10 代の子どもたちを健全育成する。地域に根差したスポーツ活動を行うことで、地域社会のスポーツ振興を図る。スポーツ活動を通じて、学校、家庭、地域の連携をより促進させ、10 代の子どもたちの教育環境を整える。
■サービス
高校生との交流（中・高連携）、学校施設を利用したスポーツ活動、専門指導
■顧客
希望するスポーツ活動が身近にない中学生、種目初心者の中学生、周辺地以外の中学生
■事業展開
- サッカー　＋　他 1、2 種目・・・・・↓　2年後
- クラブ関係者、同窓生による地区社会人リーグ加盟（トップチーム設立）・・・・・↓　1年後
- 中学生チームの地区または東京都協会加盟・・・・・↓　1年後
- 小学生対象の事業開始(多世代型の事業)

■事業の収支予想
価格、回収条件、顧客予定数、所要人員を試算前提とし、事業3ヵ年の収支予想を算出。
■リスクマネジメント
活動中の事故　中高連携活動として、事前に緊急連絡先および参加確認書を持参。保険加入希望者にはスポーツ安全保険の加入手続きを行う。
事業の継続　中期的にクラブの同窓生または高校の同窓会へと権限移譲を図る。

[勤務校の現状]
　アンケート調査を行った結果、運動・スポーツに興味ある者が7割以上となり、また生涯続けたいと思う者が比較的多い傾向である。

[学校施設]
　子どもや地域住民にとって最も身近なスポーツ施設であり、日本の運動・スポーツ施設の約6割を有しているが、気軽に利用できる状況ではない。特に高等学校の屋外運動場、体育館、野外庭球場のすべての学校施設において開放率が極端に低い。

[主なスポーツ振興計画]
　東京都教育庁による「東京スポーツビジョン」、「部活動振興基本計画」、イギリス政府による「未来に向けての学校づくり」では、学校施設を地域のスポーツ振興
　の拠点としている。

[結論]
　家庭の教育力の低下、地域社会の衰退などの問題が顕在化するなか、スポーツを通じた政策が見直されるべきだと考える。